

市民アンケート調査  
(市民の幸福に関する意識調査)

《集計結果》



平成24年7月

天草市企画部企画課

# 目 次

1 アンケートの概要	1
（1）調査項目	1
（2）調査時期	2
（3）調査対象及び調査方法	2
2 アンケートの結果	2
（1）全体集計結果	2
（2）満足度と重要度の関係	11
3 市民総幸福量の算出	12
（1）算出方法・結果	12
4 今後の方向性	14
（1）指標の活用の方向性	14
（2）政策展開の方向性	14

# 1 アンケートの概要

## (1) 調査項目

調査項目は、以下の3項目である。

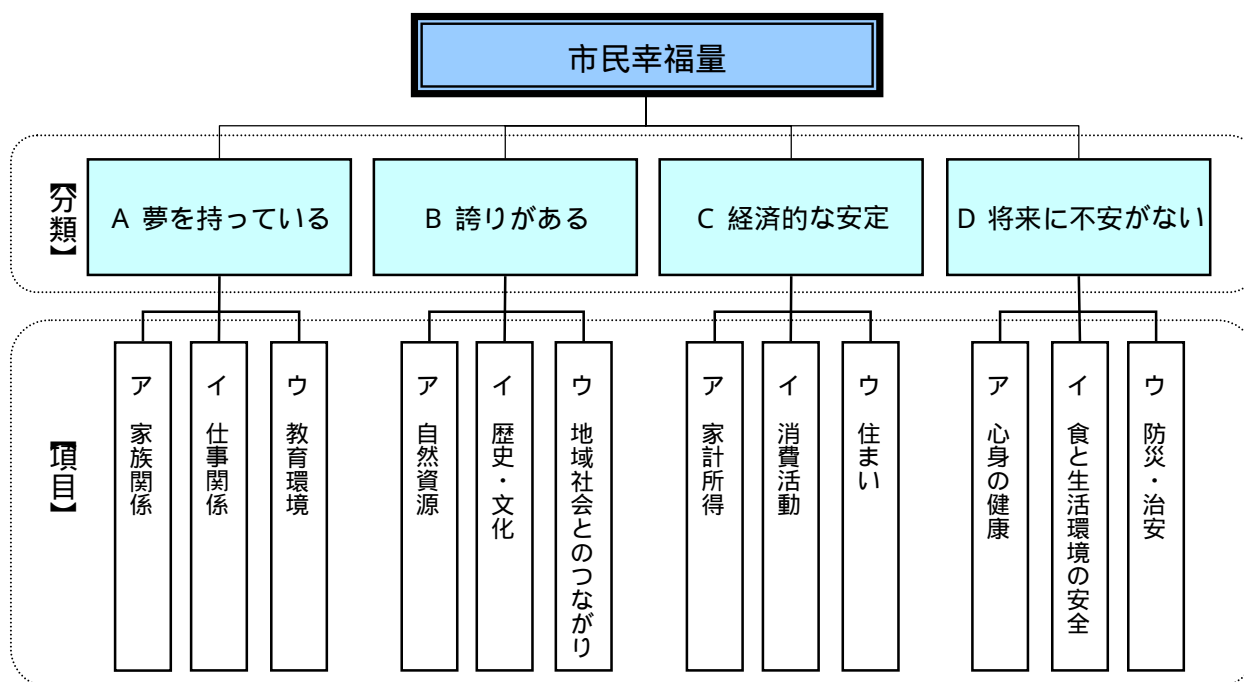
### 〔問1〕あなたの幸福度について

現在の「直観的な幸福度」について、5段階で質問。

### 〔問2〕幸福の要因に関する満足度等について

市民の幸福量を構成すると想定される“4つの分類”・“12の項目”の幸福要因に関する満足度や重要度等について質問。

#### 【市民幸福量の構成】



### 〔問2〕“12項目”に関する満足度やお考えについて

“12の項目”に関し、各項目に3つの細項目（36の設問項目）を設定し、その満足度や考えを5段階で質問。

### 〔問2〕“4つの分類”の重要度について

“4つの分類”に関し、幸福の全体を「10」とした場合に、それぞれの重要度（どれを重視するかを度合い）がいくつになるのかを質問。

## (2) 調査時期

平成 24 年 1 月 10 日～1 月 27 日

## (3) 調査対象及び調査方法

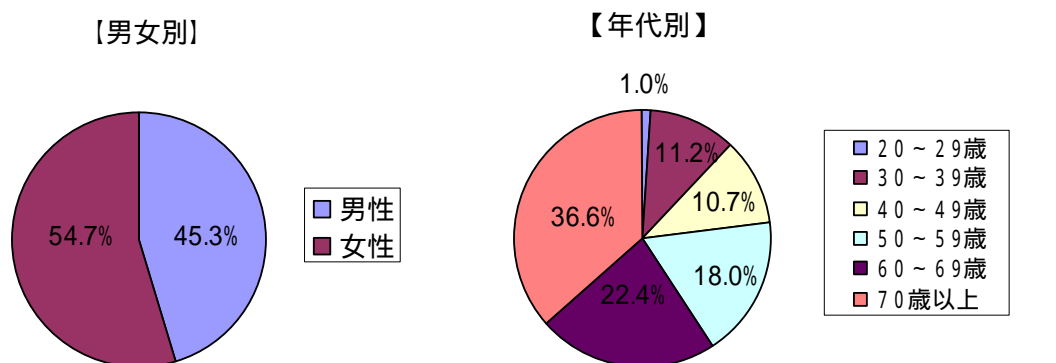
天草市内在住の満 20 歳以上男女の中から 500 名を無作為に抽出し、郵送によるアンケート調査を実施。

## 2 アンケートの結果

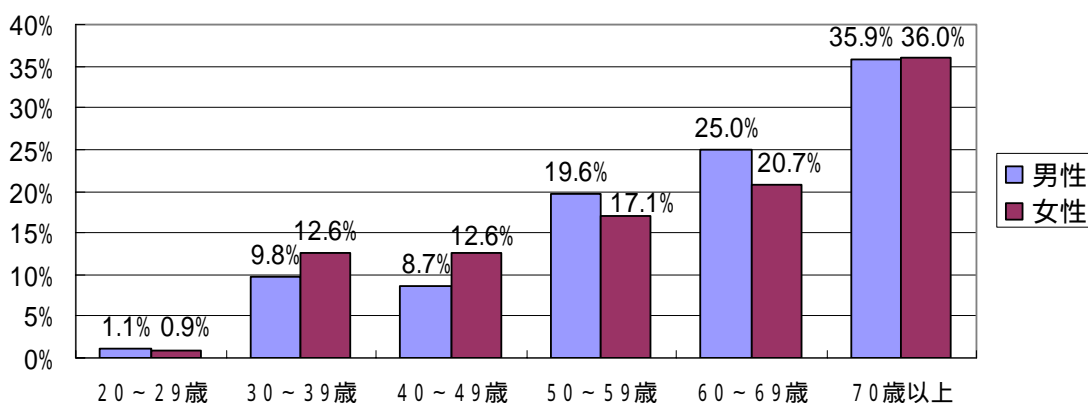
### (1) 全体集計結果

調査票の回収結果は、回収数が 207 名（回収率 41.4%）であった。

男女別及び年代別の内訳は次のグラフのとおりである。男女別では女性が、年代別では 60 歳以上の方からの回答が多かった。



【男女別・年代別割合】

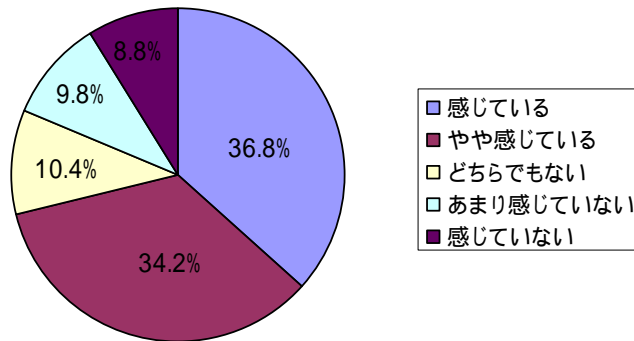


各問及びその回答結果は、次頁のとおりである。

なお、いずれの回答も無回答者の数を除いて集計した結果である。

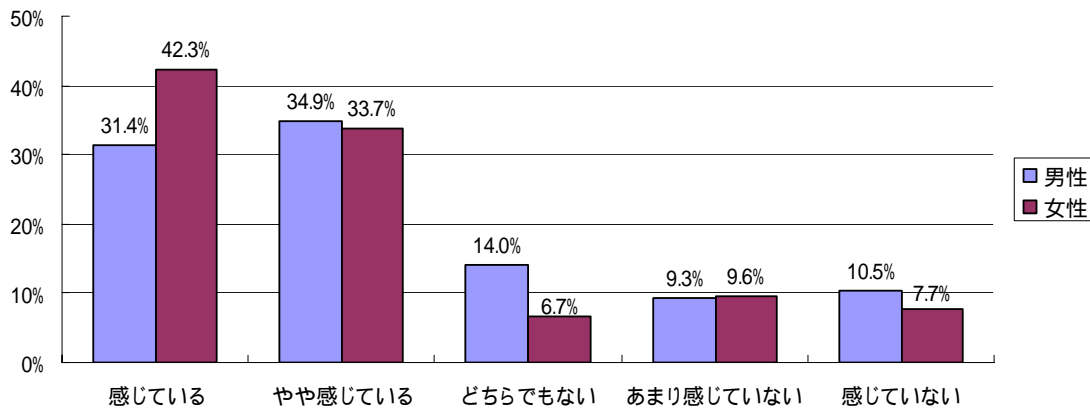
## 〔問 1〕 あなたの幸福度について

現在、端的に幸せと感じているかという「直観的な幸福度」を5段階で質問した。その結果は次のとおりである。



「感じている」、「やや感じている」を合計すると約71%の方が「幸福」を感じていると回答された。

〔男女別〕



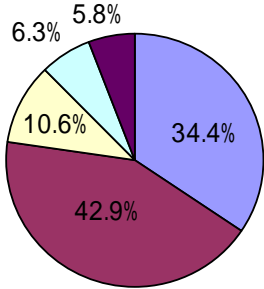
## 〔問 2 - 〕“ 1 2 の項目 ” に関する満足度のお考えについて

幸福要因の”1 2 の項目”に関係すると考えられる細項目をそれぞれ3つずつ設定し、それらに対する満足度や考えを5段階で回答してもらうよう質問した。その結果は、次ページからの図のとおりである。円グラフは、それぞれの回答数の割合を示している。また、円グラフの下の「満足度平均」は、「満足している」を5点、「やや満足している」を4点、「どちらでもない」を3点、「やや不満だ」を2点、「不満だ」を1点として、それらの平均値を示したものである。

# A 夢を持っている

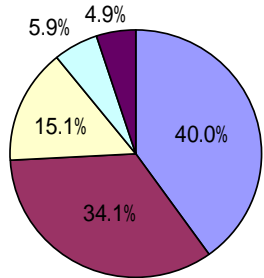
## ア 家族関係

家族間のコミュニケーション



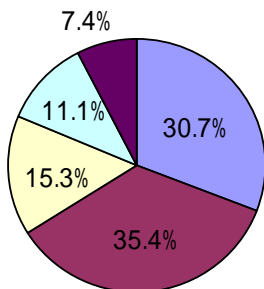
満足度平均: 3.9

親との交流



満足度平均: 4.0

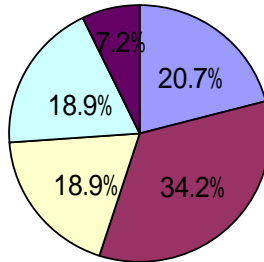
家族の将来に対する希望



満足度平均: 3.7

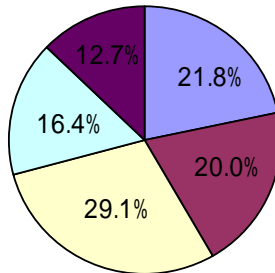
## イ 仕事関係

仕事の内容・やりがい



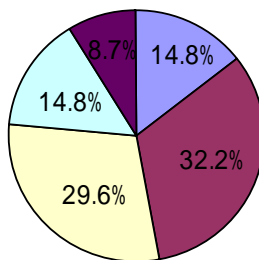
満足度平均: 3.4

労働条件



満足度平均: 3.2

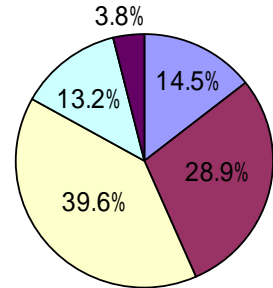
仕事と生活の調和



満足度平均: 3.3

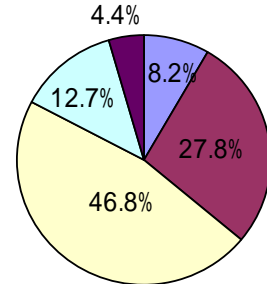
## ウ 教育環境

学校教育による  
健やかな心身の成長



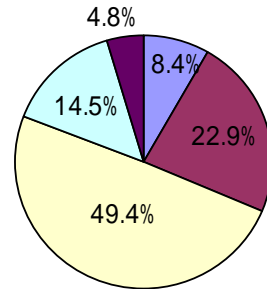
満足度平均: 3.4

学校教育による  
確かな学力の向上



満足度平均: 3.2

自己啓発活動・生涯学習



満足度平均: 3.2

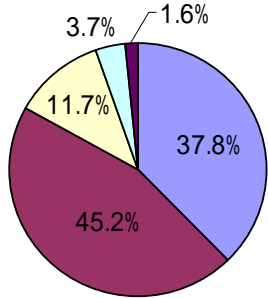
【グラフの凡例】 ■ 満足している ■ やや満足している □ どちらでもない □ やや不満だ ■ 不満だ

■ 希望がある ■ やや希望がある □ どちらでもない □ やや希望がない ■ 希望がない (A - ア - )

# B 誇りがある

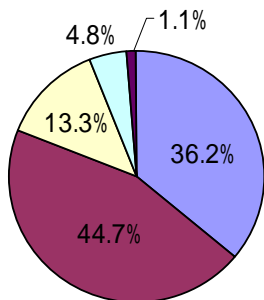
## ア 自然資源

自然資源に恵まれている



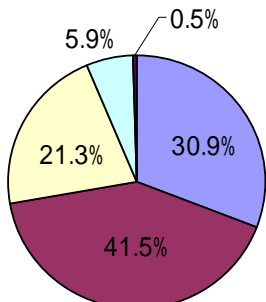
満足度平均: 4.1

自然のすばらしさや偉大さ



満足度平均: 4.1

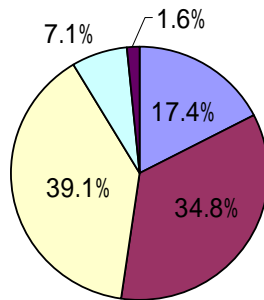
自然に親しんだり、自然を楽しんだりすること



満足度平均: 4.0

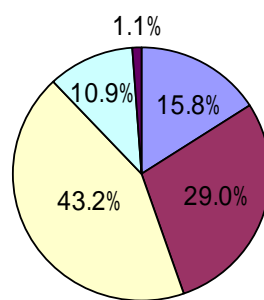
## イ 歴史・文化

歴史・文化に恵まれている



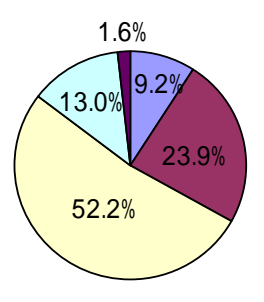
満足度平均: 3.6

歴史・文化への自信や誇り



満足度平均: 3.5

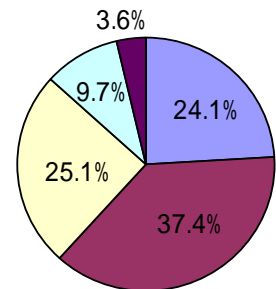
歴史・文化に親しんだり、歴史・文化を楽しんだりすること



満足度平均: 3.3

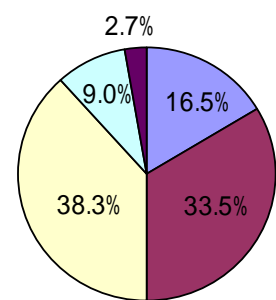
## ウ 地域社会とのつながり

住民同士の交流



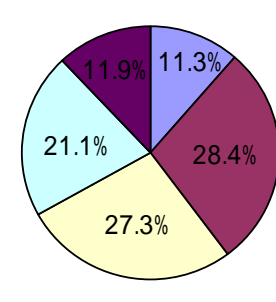
満足度平均: 3.7

地域のボランティア活動



満足度平均: 3.5

行政への信頼



満足度平均: 3.1

【グラフの凡例】

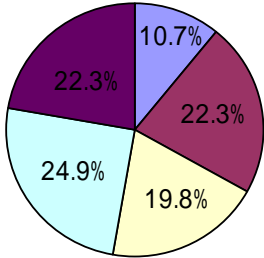
■ 満足している ■ やや満足している □ どちらでもない □ やや不満だ ■ 不満だ

■ 信頼している ■ やや信頼している □ どちらでもない □ やや不信だ ■ 不信だ (B - ウ - )

# C 経済的な安定

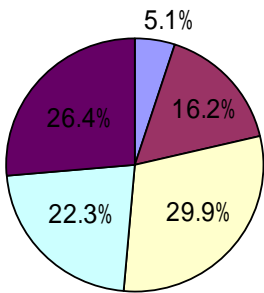
## ア 家計所得

現在の所得・収入



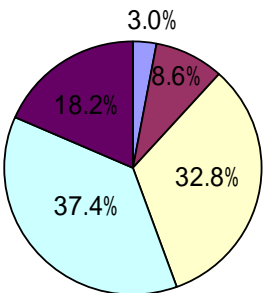
満足度平均: 2.7

現在の貯蓄・資産



満足度平均: 2.5

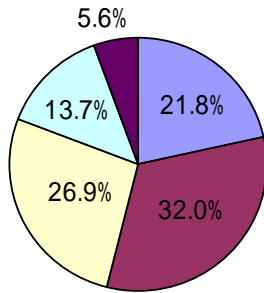
今後の暮らし向きの見通し



満足度平均: 2.4

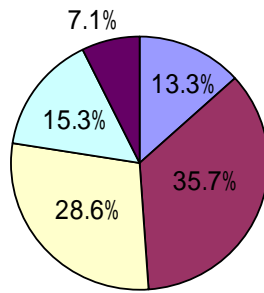
## イ 消費活動

日常生活に必要なモノの消費



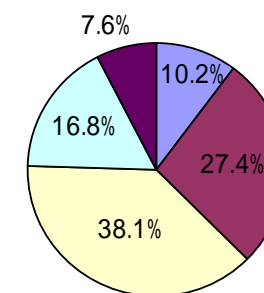
満足度平均: 3.5

耐久財の消費



満足度平均: 3.3

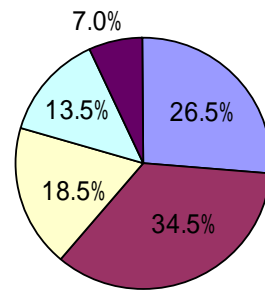
余暇活動の消費



満足度平均: 3.2

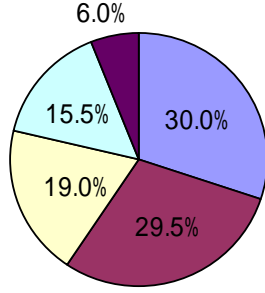
## ウ 住まい

住まいの快適さ



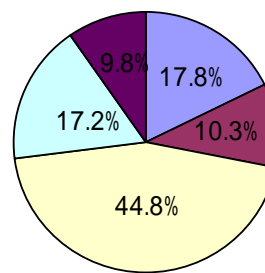
満足度平均: 3.6

住まいのゆとり



満足度平均: 3.6

住まいの取得(購入・賃貸)しやすさ



満足度平均: 3.1

【グラフの凡例】

■ 満足している ■ やや満足している □ どちらでもない □ やや不満だ ■ 不満だ

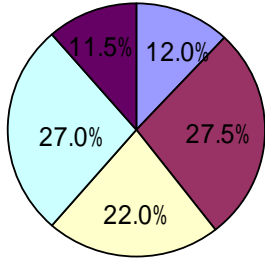
■ 良くなる ■ やや良くなる □ どちらでもない □ やや悪くなる ■ 悪くなる (C - ア - )



# D 将来に不安がない

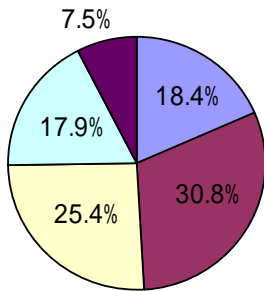
## ア 心身の健康

からだの健康状態



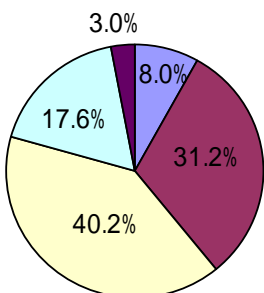
満足度平均: 3.0

こころの健康状態



満足度平均: 3.3

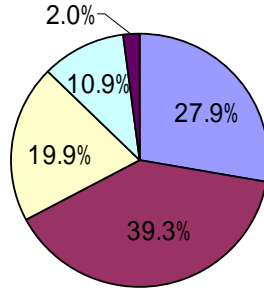
健康増進の取組み



満足度平均: 3.2

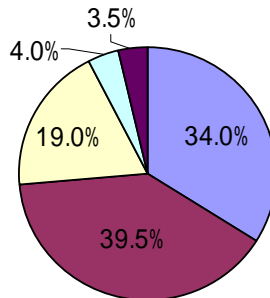
## イ 食と生活環境の安全

食の安全性



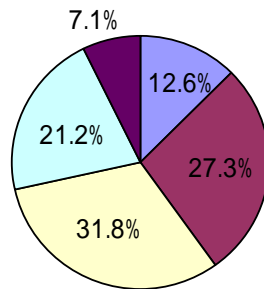
満足度平均: 3.8

地域の生活環境



満足度平均: 4.0

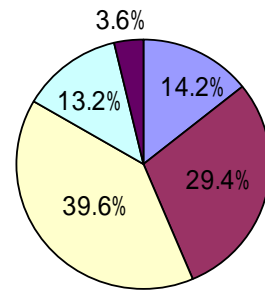
公共の場所の管理



満足度平均: 3.2

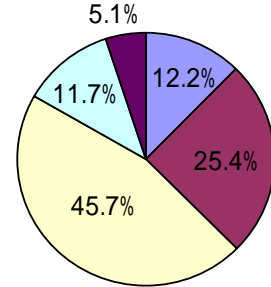
## ウ 防災・治安

地域の防災対策



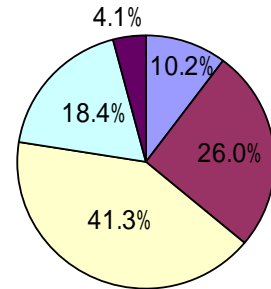
満足度平均: 3.4

地域の防犯対策



満足度平均: 3.3

地域の交通安全対策



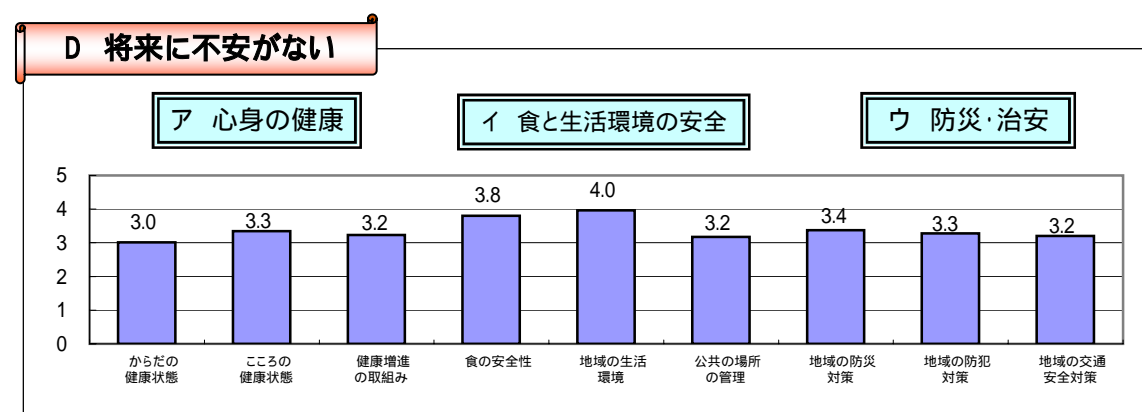
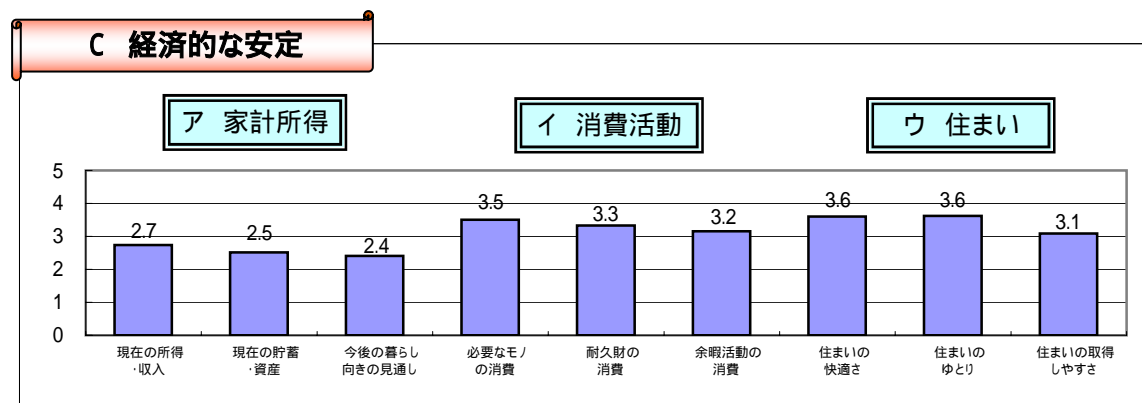
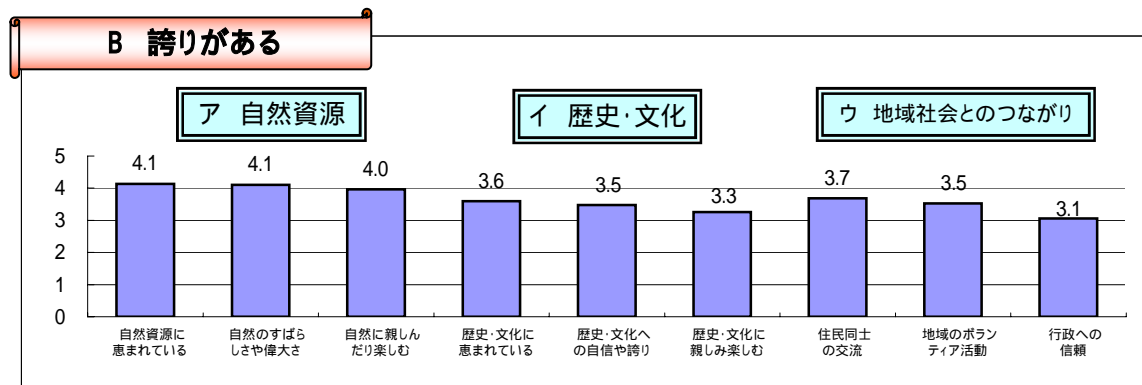
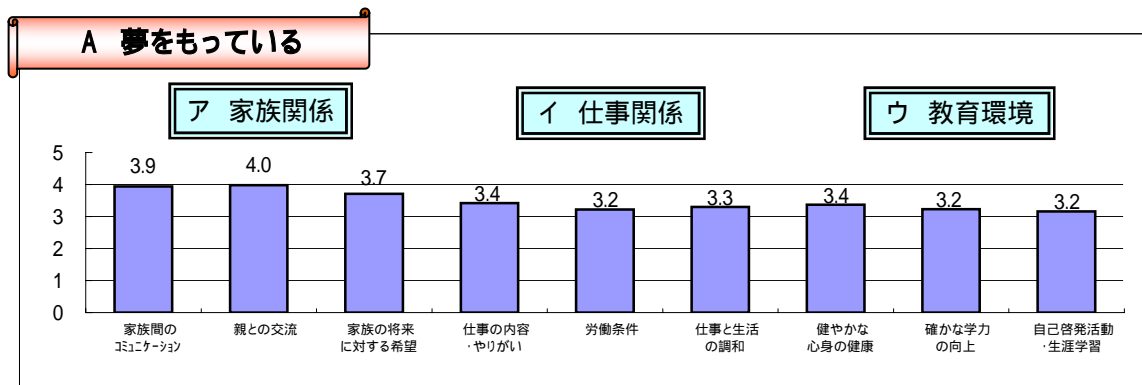
満足度平均: 3.2

**【グラフの凡例】**

■ 満足している ■ やや満足している □ どちらでもない □ やや不満だ ■ 不満だ

上記の各設問項目に対する市民の満足度について、各回答の平均値を比較したものが、次ページのグラフである。

## < 各設問項目に対する満足度の平均値 >



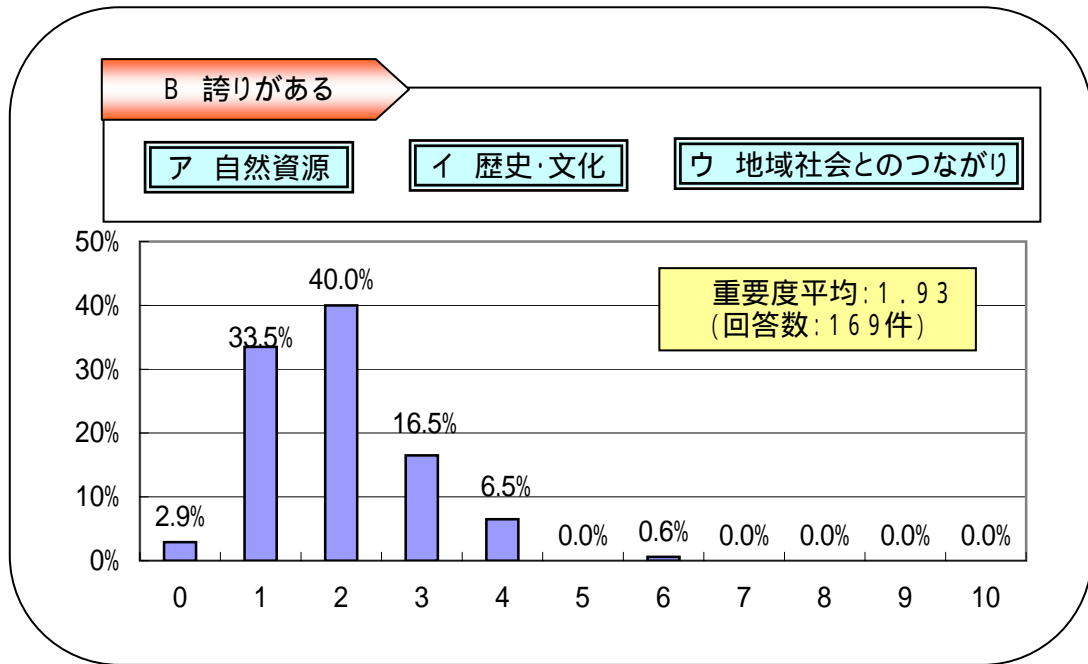
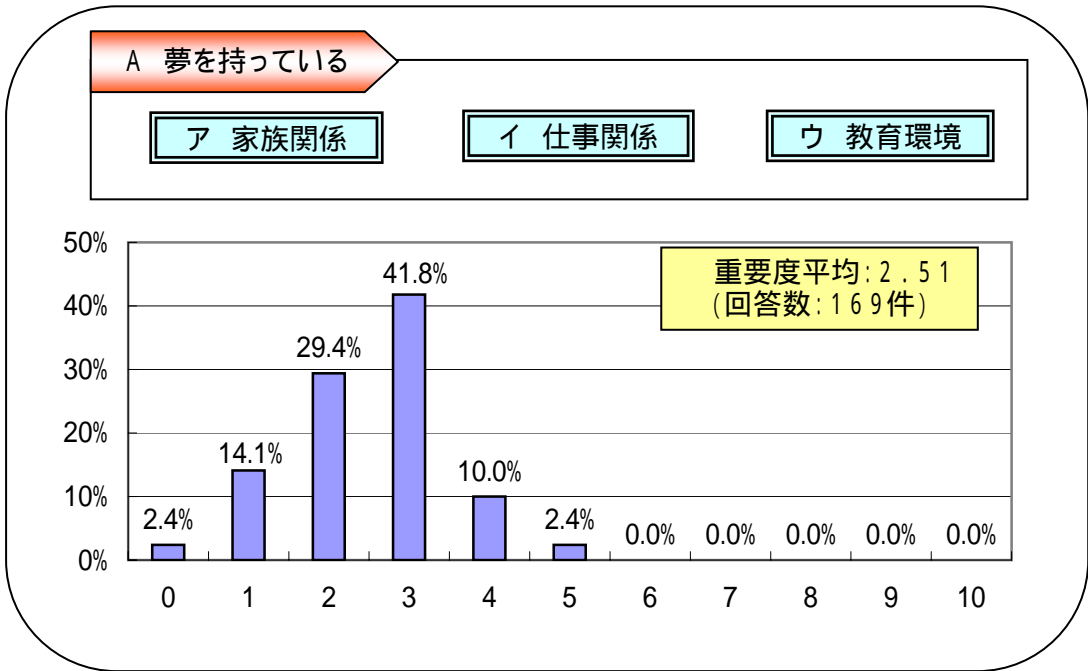
上記のグラフから、「B 誇りがある」の「ア 自然資源」と「A 夢をもっている」の「ア 家族関係」に対する満足度が高いことが読み取れる。これは、天草の豊かな自然を市民自身がしっかり認識し、評価していること、また、生活基盤である家庭環境の安定性を示していると思われる。

一方で、「C 経済的な安定」の「ア 家計所得」に対する満足度が他の項目と比べると全体的に低い結果となっており、厳しい経済情勢が影響していると考えられる。

**〔問2 - 〕 ” 4つの分類 ” の重要度について**

幸福要因の ” 4つの分類 ” ( 「 A 夢をもっている」、「 B 誇りがある」、「 C 経済的な安定」、「 D 将来に不安がない」 ) について、幸福の全体を 「 10 」 とした場合、 A から D の重要度 ( どれを重視するか の 度合い ) がそれぞれいくつになるかを数値で回答してもらった。

その結果が次のとおりであるが、棒グラフはそれぞれの重要度の回答の割合を示し、右の 「 重要度平均 」 は重要度の平均値を示している。

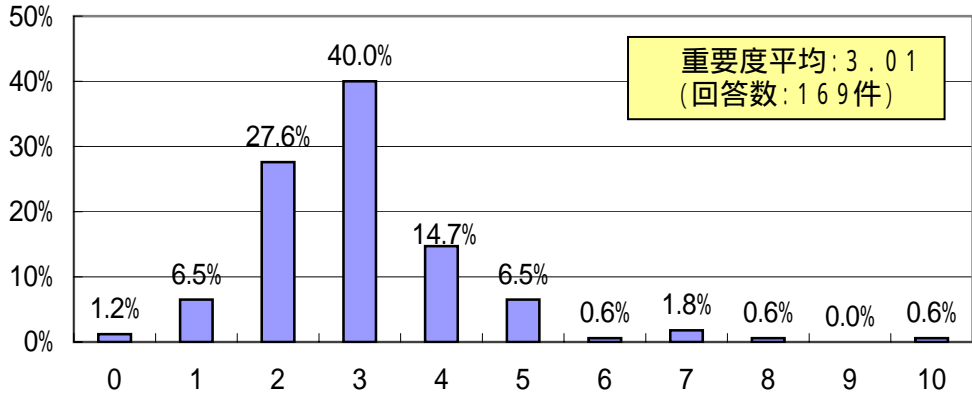


**C 経済的な安定**

ア 家計所得

イ 消費活動

ウ 住まい

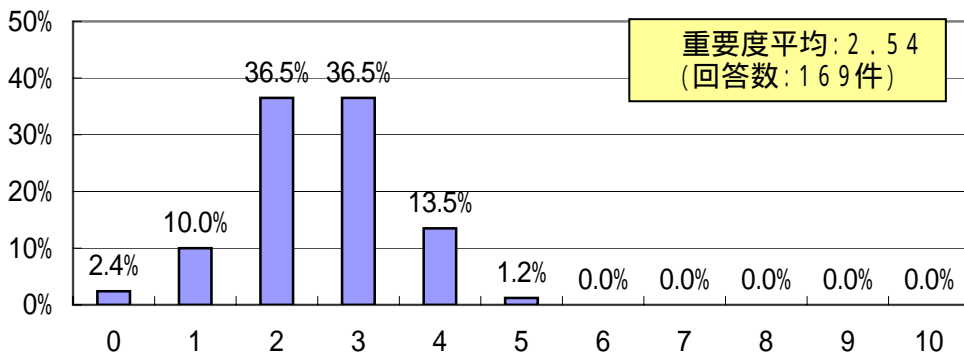


**D 将来に不安がない**

ア 心身の健康

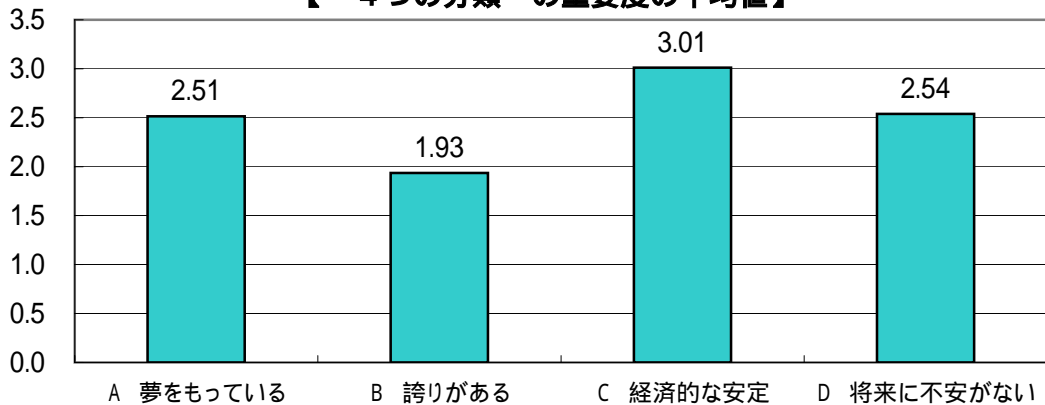
イ 食と生活環境の安全

ウ 防災・治安



上記の“4つの分類”の重要度を整理したのが、次のグラフである。

【“4つの分類”の重要度の平均値】



## (2) 満足度と重要度の関係

問2 - の“4つの分類”の重要度平均では、「C 経済的な安定」が最も高く、続いて「D 将来に不安がない」、「A 夢を持っている」、そして「B 誇りがある」という順になった。

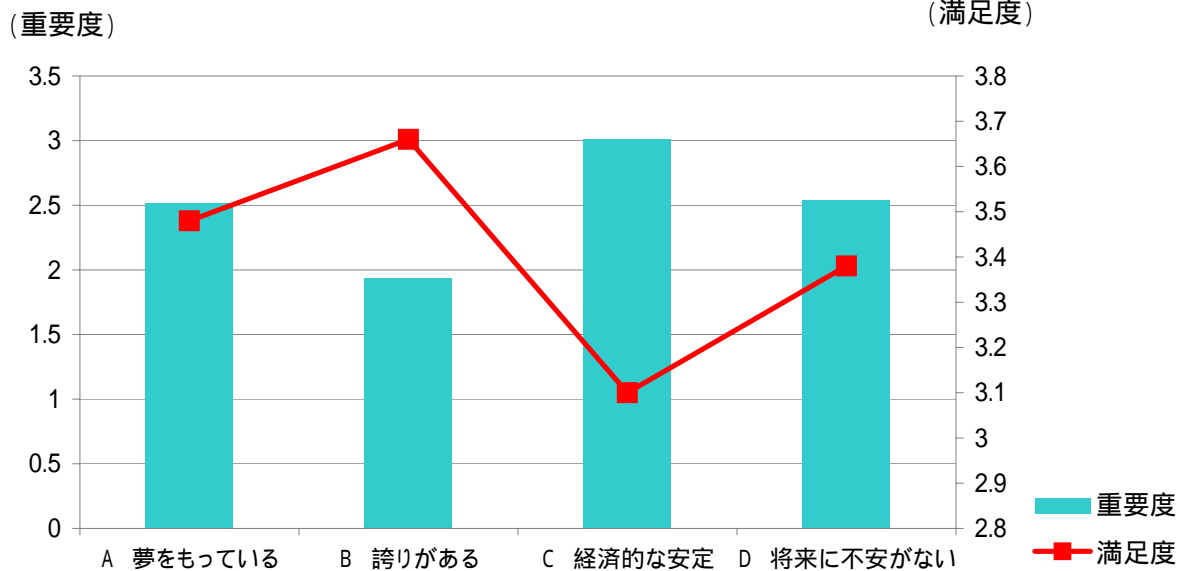
問2 - の“12の項目”に関する満足度においては、「B 誇りがある」が概ね高く、「C 経済的な安定」が概ね低いという対照的な結果となった。

また、「D 将来に不安がない」、「A 夢を持っている」は、満足度、重要度ともに概ね高い結果となった。

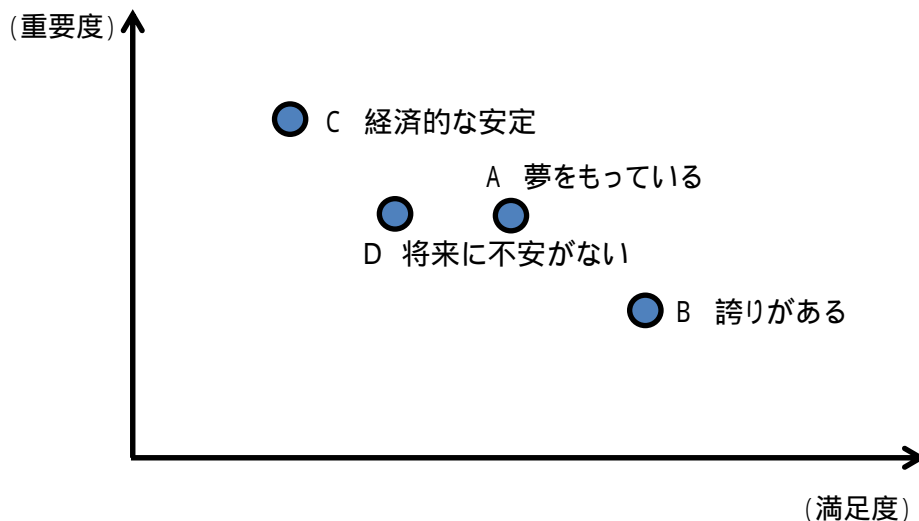
市民全体としては、「C 経済的な安定」が重要と考えていながら、これに満足していないこと、また、自然資源や歴史・文化などの「B 誇りがある」は、幸福との関係ではあまり重視されておらず、身近にあって満足しているものと考えられる。

これらを整理したのが、次のグラフとイメージ図である。左の指標が重要度を示し、右の指標が満足度を示している。

### <満足度と重要度の関係(グラフ)>



### <満足度と重要度の関係(イメージ)>



### 3 市民総幸福量の算出 (1) 算出方法・結果

市民アンケートの結果に基づき、各幸福要因に関する満足度と重要度を用いて、次の手順により、市民総幸福量を算出する。

**【手順】**

満足度、重要度の平均値を算出する。

設問項目ごとの満足度を”4つの分類”別に合算する。

“4つの分類”別に合算した満足度に、分類ごとの重要度を乗じて合算する。

以上の手順に従って算出したものが、次のとおりである。

	重要度	満足度計	項目	設問項目	満足度
A 夢を持っている	2.51	31.3	ア 家族関係	家族間のコミュニケーション	3.9
				親との交流	4.0
				家族の将来に対する希望	3.7
			イ 仕事関係	仕事の内容・やりがい	3.4
				労働条件	3.2
				仕事と生活の調和	3.3
			ウ 教育環境	健やかな心身の健康	3.4
				確かな学力の向上	3.2
				自己啓発活動・生涯学習	3.2

	重要度	満足度計	項目	設問項目	満足度
B 誇りがある	1.93	32.9	ア 自然資源	自然資源に恵まれている	4.1
				自然のすばらしさや偉大さ	4.1
				自然に親しんだり楽しむ	4.0
			イ 歴史・文化	歴史・文化に恵まれている	3.6
				歴史・文化への自信や誇り	3.5
				歴史・文化に親しみ楽しむ	3.3
			ウ 地域社会とのつながり	住民同士の交流	3.7
				地域のボランティア活動	3.5
				行政への信頼	3.1

	重要度	満足度計	項目	設問項目	満足度
C 経済的な安定	3.01	27.9	ア 家計所得	現在の所得・収入	2.7
				現在の貯蓄・資産	2.5
				今後の暮らし向きの見通し	2.4
			イ 消費活動	必要なモノの消費	3.5
				耐久財の消費	3.3
				余暇活動の消費	3.2
			ウ 住まい	住まいの快適さ	3.6
				住まいのゆとり	3.6
				住まいの取得しやすさ	3.1

	重要度	満足度計	項目	設問項目	満足度
D 将来に不安がない	2.54	30.4	ア 心身の健康	からだの健康状態	3.0
				こころの健康状態	3.3
				健康増進の取組み	3.2
			イ 食と生活環境の安全	食の安全性	3.8
				地域の生活環境	4.0
				公共の場所の管理	3.2
			ウ 防災・治安	地域の防災対策	3.4
				地域の防犯対策	3.3
				地域の交通安全対策	3.2

$$\begin{aligned}
 \text{市民総幸福量} &= A(\text{満足度計} \times \text{重要度}) + B(\text{満足度計} \times \text{重要度}) + C(\text{満足度計} \times \text{重要度}) \\
 &\quad + D(\text{満足度計} \times \text{重要度}) \\
 &= (31.3 \times 2.51) + (32.9 \times 1.93) + (27.9 \times 3.01) + (30.4 \times 2.54) \\
 &= \underline{\underline{303.3}}
 \end{aligned}$$

市民総幸福量として、303.3という値が得られた。しかしながら、これでは数値の持つ意味合いがとらえづらいため、最高を100として指数化すると、67.4という値となる。

この数値自体に意味があるというより、その構成を分析し、原因を探ることができることに意味がある。

また、今回算出した数値を基準に経年でその増減を見ることで、市民幸福量が上がっているか否かが確認できることとなる。

( 市民幸福量の最高は450となるため、100を最高に換算すると、 $303.3 \div 450 \times 100 = 67.4$ となる。 )

## 4 今後の方向性

### (1) 指標の活用方向性

今回の調査を毎年度継続して実施し、その数値の増減(推移)を見ていくことで「市民総幸福量」が上がっているか否かの「見える化」が可能となる。

また、幸福量の算出に至るプロセスにおいて、幸福要因に対する市民の満足度や重要度という情報を把握できるため、数値の増減のみならず、これらの情報を市民の属性や地域特性等に応じた的確に抽出し、整理することで、きめ細かな施策の立案、実施につなげることが可能となる。

### (2) 政策展開方向性

今回の調査研究により、市民が幸福を得るためには「経済的な安定」が重要視されていることから、それに関する満足度の向上をより一層図る必要がある。

また、その他に満足度が低かった「心身の健康」、「教育環境」、「地域社会とのつながり」などに着目した施策に取り組む一方、今回の調査で高い評価を得た「自然資源」、「家族関係」、「食と生活環境の安全」などに着目した施策に取り組むことにより、コミュニティの維持や活性化等を進めていくことが重要である。

今後、同時期に実施している「市政に関するアンケート」の結果も踏まえながら、市民と行政が一体となって、幸福の姿を見出し、それに応じた有効な取り組みにつなげる必要がある。